

- ・宮城県の大崎エリアは、土地面積の2/3を森林が占めています。
- ・エリア北西部の鳴子地域及び岩出山地域は、宮城県内でも特に林業・木材製造業の盛んな地域です。
- ・本プロジェクトは、大崎エリアに所在する県有林の適切な森林施業をとおして、CO2吸収量をオフセット・クレジットとして販売し、被災地の復興と地球温暖化防止につなげるものです。
- ・プロジェクトで得られたクレジットの販売・流通により、被災地支援と地球温暖化防止に貢献できるCSRを実現できます。

プロジェクトの実施場所	宮城県大崎市、加美町
吸収量(予測)	年間 125t-CO2
在庫量	162 t-CO2(発行済)
1t-CO2あたりの希望単価	¥10,500



左:紅葉の鳴子峡  
下:大崎エリアでの  
森林整備(間伐)



本プロジェクトの対象地である、大崎市エリアは2008年6月14日、岩手・宮城内陸地震により大きな被害を受けました。

そして2011年3月11日の東日本大震災。沿岸の木材消費地が甚大な被害を受ける中、当エリアは内陸の木材供給地として重要な役割を果たしています。

これまで、全国からの多くの応援をいただき、震災からの復旧・復興へ歩み始めましたが、その道のりは長く、ここからが大切なときです。

本プロジェクトは、被災地における間伐などの適切な森林施業をとおして、CO2吸収量をオフセット・クレジットとして販売し、被災地の復興と地球温暖化防止に貢献しようというものです。

クレジットの販売により得られた資金は、再び被災地の森林施業に活用され、被災地の雇用促進と林業振興、そしてCO2排出削減に役立てられます。また、間伐により得られた木材は、被災地の復興住宅等に活用されます。

